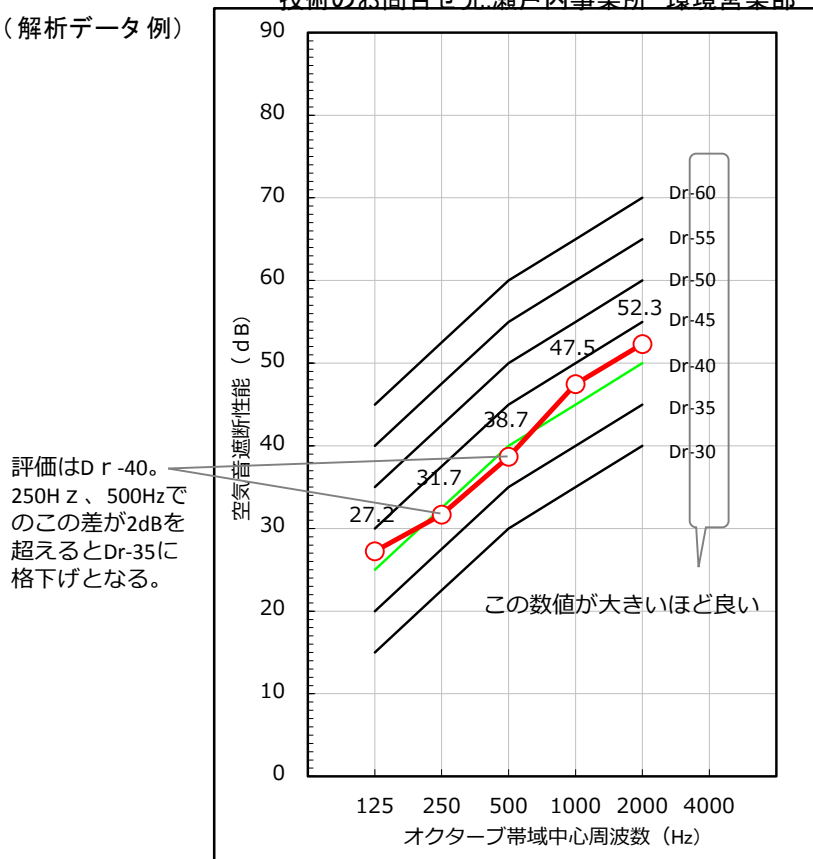


(解析データ例)



空気音遮断性能の周波数特性と等級 (等級曲線)

● 参考資料

日本建築学会では、建物・室用途別の適用等級、遮音性能の表示尺度と住宅における生活実感との対応の例を表1、3のように定めています。また求めた適用等級は表2により意味づけられます。

注. 200. 1に改訂された現JIS A 1419-1: 2000におけるDr値がD値に相当します。

表1 室間音圧レベル差に関する建物、室用途別適用等級

建築物	室用途	部位	適用等級			
			特級	1級	2級	3級
集合住宅	居室	隣戸間界壁	D-55	D-50	D-45	D-40
		隣戸間界床				
ホテル	客室	客室間界壁	D-55	D-50	D-45	D-40
		客室間界床				
事務所	業務上プライバシーを要求される室	室間仕切壁	D-50	D-45	D-40	D-35
		テナント間界壁				
学校	普通教室	室間仕切壁	D-45	D-40	D-35	D-30
病院	病院 (個室)	室間仕切壁	D-50	D-45	D-40	D-35

表2 適用等級の意味

適用等級	遮音性能の水準	性能水準の説明
特級	遮音性能上特にすぐれている	特別に高い性能が要求された場合の性能水準
1級	遮音性能上すぐれている	建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級	遮音性能上標準的である	一般的な性能水準
3級	遮音性能上やや劣る	やむを得ない場合に許容される性能水準

表3 表示尺度と住宅における生活実感との対応の例

遮音等級		D-65	D-60	D-55	D-50	D-45	D-40	D-35	D-30	D-25	D-20	D-15	備考
空気音	ピアノ、ステレオなどの大きい音	通常では聞えない	ほとんど聞えない	かすかに聞える	小さく聞える	かなり聞える	曲がはっきりわかる	よく聞える	大変よく聞える	うるさい	かなりうるさい	大変うるさい	音源から1mで90 d BA 前後を想定
	テレビ、ラジオ、会話などの一般の発生音	聞えない	聞えない	通常では聞えない	ほとんど聞えない	かすかに聞える	小さく聞える	かなり聞える	話の内容がわかる	はっきり内容が分かる	よく聞える	つつぬけ状態	音源から1mで75 d BA 前後を想定
	生活実態、プライバシーの確保	ピアノやステレオを楽しめる	カラオケパーティーなどを行っても問題無い	隣戸の気配を感じない	日常生活で気がねなく生活できる・隣戸をほとんど意識しない	隣戸在宅の有無がわかるがあまり気にならない	隣戸の生活がある程度わかる	隣戸の生活がかなりわかる	隣戸の生活行為がよくわかる	隣戸の生活行為が大変よくわかる	行動がすべて分かる	遮音されているという状態ではない・小さな物音までわかる	生活行為、気配での例